

地域の危険度マップ

高山西部地域

危険度マップ・全壊率 凡例

- 危険度1 0%以上～ 3%未満
- 危険度2 3%以上～ 5%未満
- 危険度3 5%以上～ 7%未満
- 危険度4 7%以上～10%未満
- 危険度5 10%以上～20%未満
- 危険度6 20%以上～30%未満
- 危険度7 30%以上

「危険度マップ」の見方

「危険度マップ」とは、裏面の「揺れやすさマップ」で示した強さの地震が起きたとき、建物の被害予想を「危険度」として表示したものです。地図上には、建物が存在するメッシュ(約50m四方)についてのみ着色しています。

耐震診断・耐震補強工事の助成制度について

高山市では、地震に強い安全なまちづくりを目指すため、市内の建物所有者を対象とした「耐震診断」、「耐震補強工事」の助成制度を設けています。この制度を受けるには、要件がありますので、詳しくは高山市基盤整備部都市整備課までお問い合わせください。

住宅の耐震性について

地震における木造住宅の倒壊率は、古い住宅ほど高く、耐震壁の少なさやバランス配置の悪さ、老朽化等が倒壊の原因であるといわれています。特に、昭和56年5月31日以前に着工している場合や平面の形状が不整形な場合等では、耐震性が低い傾向にあります。心当たりがある方は、専門家による「耐震診断」を受けましょう。

国府地域

清見地域

非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

一次持ち出し品(例)

一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に出すべき品です。

- 貴重品** 現金(10円があると公衆電話利用に便利)、預金通帳、印鑑、免許証、保険証、権利証書など
- タオル・下着・靴下など** 非常食 カンパンや缶詰など火を通さなくても食べられるもの。缶切り、栓抜きも忘れずに。
- 救急医薬品・常備薬** ばんそうこう、創薬、包帯、胃腸薬、持病のある人は常備薬など
- 懐中電灯** できれば1人1つ。予備電池も
- 携帯ラジオ** AM/FM両方聞けるものを、予備電池も
- その他** ティッシュ、ティッシュ、ロープ、マッチ、洗面用具、生理用品など

●家族構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年よりなどで特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。

●非常持ち出し品は定期的に点検をし、保存状態や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

二次持ち出し品(例)

大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。

- 食糧** 米や簡単な調理で食べられる食品
- 飲料水** 1人1日3リットルが目安。ポリタンクなどに保存しておく。
- 燃料** 卓上コンロや図形燃料
- その他** ●赤ちゃんがいる場合 粉ミルクやほ乳びん、離乳食、紙おむつなど ●お年寄りがいる場合 予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

家の内外の地震対策を進めよう

地震対策は皆さん一人ひとりあるいは家族が協力して普段から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換などを行っておきましょう。

- アンテナはしっかりと固定しておく。
- 屋根瓦やトタン屋根を点検し、危険なものは指定するか、専門業者に依頼して修理・交換する。
- 柱・梁・土台を補強する。
- 壁や天井にひび割れなどがないか、落ちたか、シロアリに食われていないか点検する。
- 窓などの板ガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼る。
- カーテンは防災加工のものにする。
- 非常持ち出し袋を常備する。
- 筋交いを入れる。
- ガラスの破片によるけがを防止するため、スリッパなどの室内履を身近に用意しておく。
- プロパンガスボンベは上下の本の脚で壁にしっかりと固定する。
- 常時水をためておく。
- 火元に消火器を設置。
- 基礎を補強する。
- 壁にはロープ、ジャッキ、テント、重宝、ビニールシートなどを用意する。
- 庭に留め具をつける。
- ガラス飛散防止フィルムを貼る。
- 部屋には物を置かない。
- 寝るものはひもで固定。
- 枕元には懐中電灯、ラジオ、靴、缶などが入った袋を用意する。
- タンクなど背の高い家具は、脚金裏や支え棒で固定する。
- ブロック塀でなく生け垣を。

●大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
●玄関や廊下には家具や荷物を置かない。
●高齢者や子どものいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。

家族防災会議を開きましょう

- いざという時に家族があわす行動できるよう、家族防災会議を開いて、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。
- 家族一人ひとりの役割を決める
- 災害弱者の支援方法を決めておく
- 非常持ち出し品の準備とチェック
- 地震発生時の連絡方法を決めておく
- 避難場所と避難ルートの確認をする